

■（64）偶然ですが、新聞が休みの日に限って…

オウム真理教元幹部が大みそかの深夜に警視庁に出頭してきて逮捕された。約17年前に警察庁長官が銃撃された事件への関与が疑われた人物。当時、現場に真っ先に駆けつけた記者の1人として、予想外の展開に驚いた。だが、新聞の初報は3日朝刊にずれ込んだ。

逮捕の発表が1日未明で、すでに新聞の締め切り時刻を過ぎていた。そのうえ2日は朝刊を休む「新聞休刊日」だったからだ。なぜか休刊日に限って何かが起きる。各社はインターネットで速報した。朝日新聞も1日未明からデジタル版などで、詳しい報道を続けた。

小学生低学年だった約40年前、新聞休刊日は、お盆と正月、春分の日と秋分の日で年4回だった記憶がある。その後、徐々に増えていき、月1回の年もあったが、現在は年10回だ。2011年は、統一地方選が予定されていた3月と4月を除く月に設けられていた。新聞販売店の休暇などが主な目的だが、記者にとってもちょっとだけ一息つける休日だった。

「24時間、365日、記者には私的な時間はないぞ」。デジタル新聞時代を迎え、20数年前の入社時に先輩らから言われた「心構え」が改めて思い起こされる。(山)